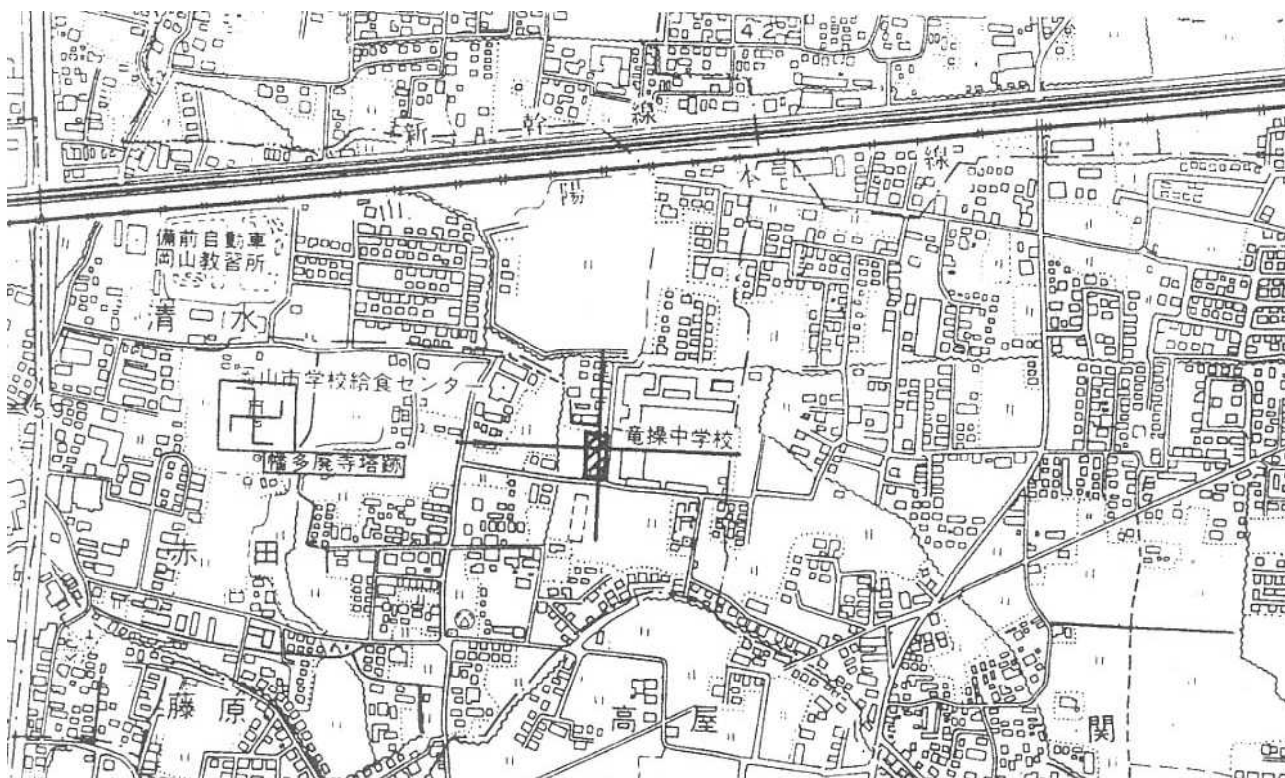


# 赤田東(竜操中)遺跡発掘調査現地説明会資料

日時：2002年4月27日(土)午後1:30～

場所：赤田東(竜操中)遺跡発掘調査現場

赤田東遺跡は、岡山市立竜操中学校のプールおよび格技場建設に伴って、昨年6月唐発掘調査をおこなってきました。付近には白鳳時代(今から約1400年前)に創建された幡多廃寺があり、その下層からは弥生時代～古墳時代の集落も見つかっていることから、今回の調査でも同じ時代の遺跡が埋まっていることが予想されました。以下、時代ごとにその内容を説明します。



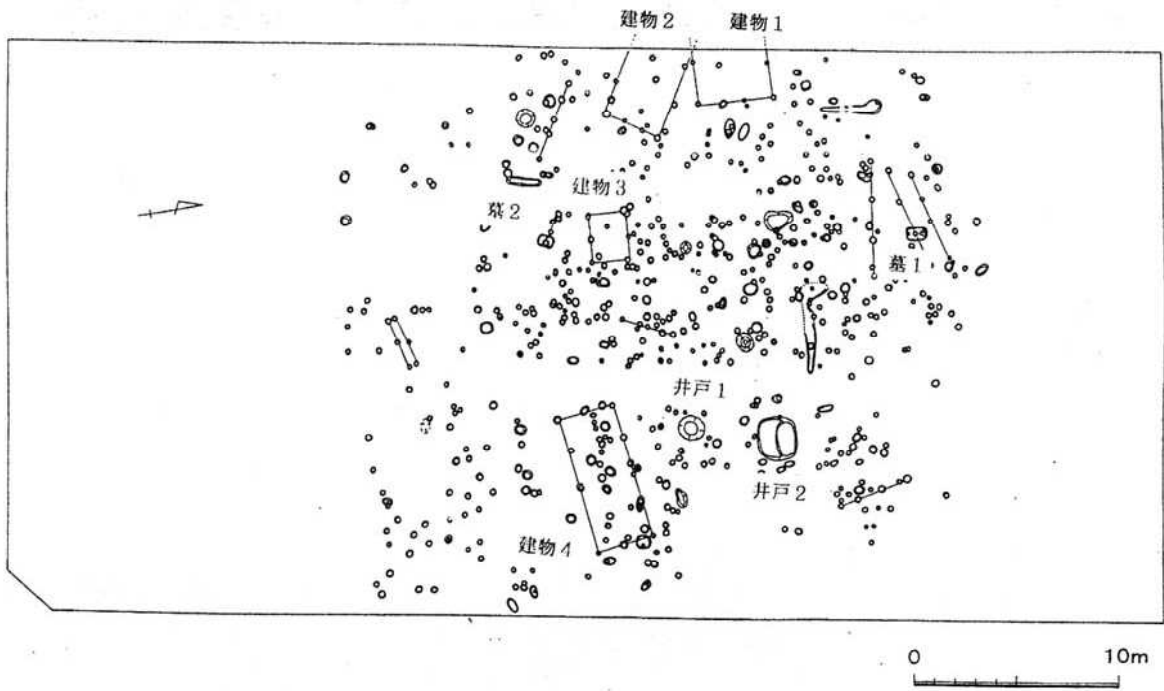
遺跡の位置

## 1.鎌倉・室町時代(今から約600～900年前:武士の時代)

建物の柱穴、井戸、墓がみつかりました。とくに柱穴の数は多く、どの穴とどの穴が1つの建物になるのかわからない程でした。しかし、それらには規則性も見当たらず、出土しているものも、日常的な土器が主体であることから、一般の集落であったと考えられます。

## 2.奈良・平安時代(今から約1200～1300年前:平城京・平安京の時代)

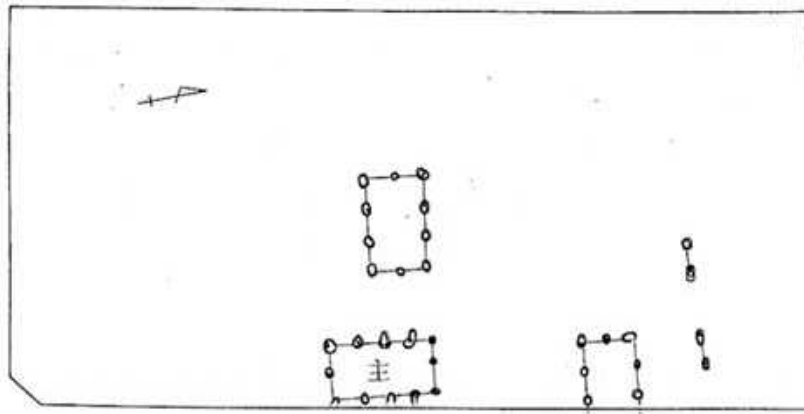
方向を東西南北にそろえた建物がみつかりました。鎌倉・室町時代の集落とは、全く異なった様子です。しかし、より細かな時代で分けると同時存在の建物は3棟ほどで、それほど広がりをもっているわけではありません。また、出土土器についても一般的な食器として用いられることの多い須恵器が主です。おそらく、一般的な集落であったと考えられます。



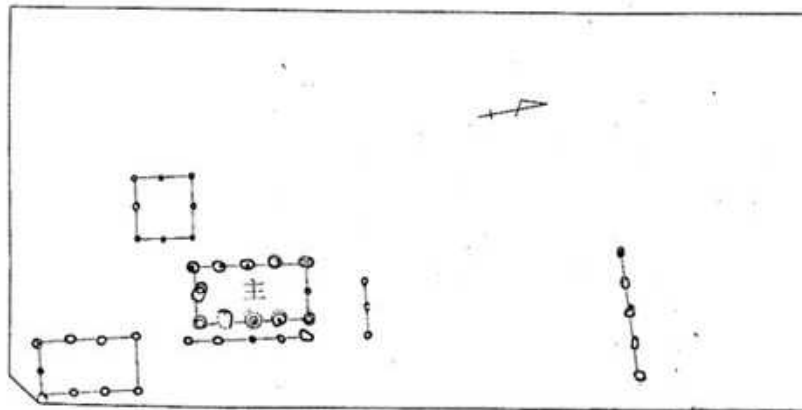
鎌倉・室町時代遺構面（約600～900年前）



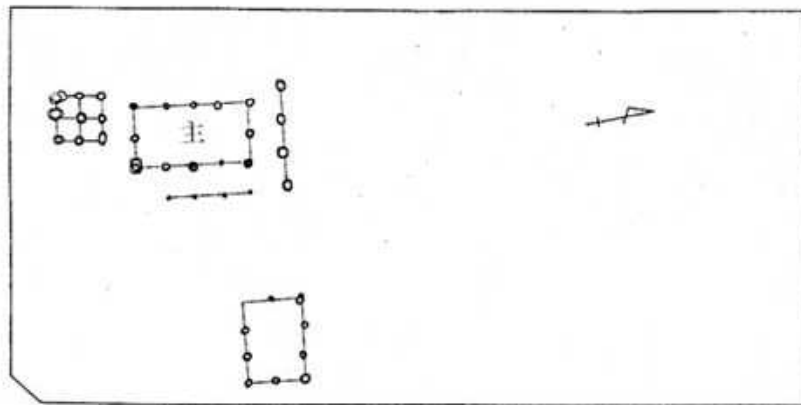
奈良・平安時代遺構面（約1200～1300年前）



8世紀中葉



8世紀末～9世紀初頭



9世紀前半

0 10m

### 3.古墳時代後期

(今から約 1400 ~ 1500 年前  
:聖徳太子や蘇我馬子の時代)

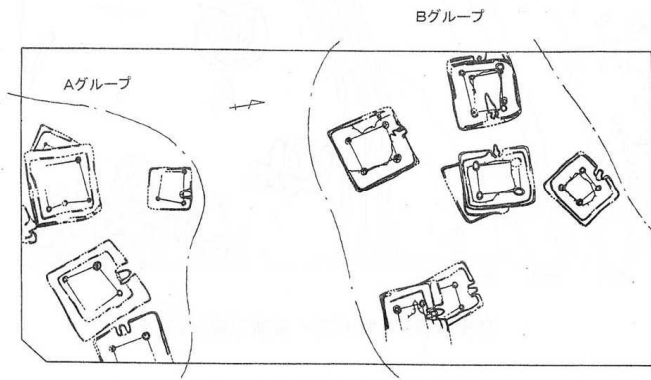
基本的には一般的な集落と  
考えられます。しかし、この  
時代に竪穴住居から掘建柱建  
物へ住居形式が変化し、宅地  
の範囲を溝で囲むようです。  
同じような変化は岡山市原尾  
島遺跡や、倉敷市矢部南向遺  
跡でも確認されます。

また、鉄づくりをおこなっ  
たと考えられるフイゴ羽口や  
鉄滓、塩をつくった土器、馬  
の骨などが出土しており、古  
代の力の源である稲・鉄・塩  
・馬がそろっていた集落であ  
ったようです。このような集  
落が、吉備には多数あり、そ  
れが古墳時代に大きな勢力を  
誇っていた吉備の力の源泉で  
あったと思われます。

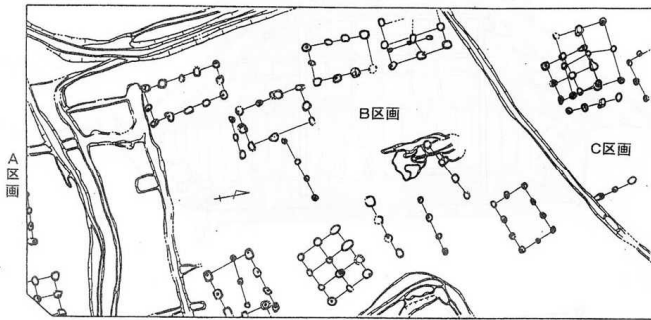
### 4.弥生時代中・後期

(今から約 1900 ~ 2100 年前  
:邪馬台国以前の時代)

竪穴住居、土坑(ごみ穴な  
ど)、溝がみつかりました。と  
くに溝は、集落の中を新たに  
掘っていることから、周辺で  
大規模な水田開発がおこなわ  
れたことを示しています。



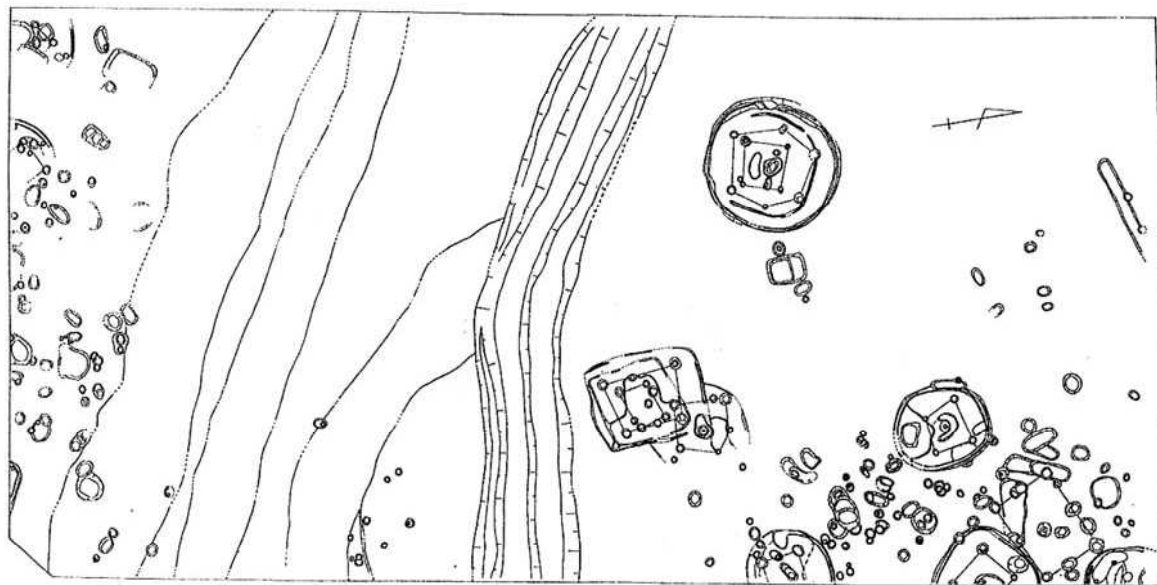
古墳時代後期(6世紀後半)



0 10m

古墳時代後期(6世紀末~7世紀前半)

古墳時代遺構変遷図



溝17 溝19 溝18

0 10m

弥生時代中・後期(約1900~2100年前)

まとめ

今回の調査で、多くの遺構や遺物が出土したことから、赤田東遺跡が旭川東岸における有力な集落の1つであったことがわかりました。また、古墳時代後期から平安時代にかけて、集落の様子がどのように変化していくのかを明らかにすることができました。今回の調査は、赤田周辺の歴史はもとより、当時の集落の歴史を知るための多くの成果をあげることができたといえます。